

転倒症例の検討

外科病棟における転倒症例の分析

中村伸理子¹⁾ 高岡 千容²⁾ 西村 瑠美²⁾
山下 裕一¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部消化器外科

²⁾ 福岡大学医学部 2 年生

要旨：病院内における入院患者の転倒や転落（以下転倒）は医療安全に関する重要な問題である。転倒についてのリスク因子を明らかにするために、福岡大学病院消化器外科病棟の入院患者の転落危険度、時間帯、BMI 及び使用薬剤と転倒との関係を検討した。対象症例38例の転倒患者を分析した結果、転倒はBMI との関連性は認められなかった。アセスメントシートの危険度 2 と 3 の患者の転倒は計82%、0 時～12時の時間帯の転倒は計66%でその要因はベッド、歩行、トイレの順であった。とくに睡眠導入剤を使用した癌患者は、0 時～6 時に多く転倒しており注意を要すると考えられた。

キーワード：医療安全，入院患者，外科病棟，転倒，転落，危険因子